リスク管理

リスクマネジメントABC

リスクとの共存

必要な情報 自分の手で

我々の日常には驚くほどたくさんのリスクが在り、かつ社会の変化に伴い常に新しく生まれているように見える。変化のあるところ(たとえ、それが社会にとってのいい方向への変化であっても)には何らかのリスクが新しく生まれているのであろう。現代は、リスクと共に居るし、リスクとの共存が求められている。

◇

さて、安全安心に係るリスクについて、改めてリスク原因者(リスクを生み出したのは誰か)、負担者(リスクを認知し、その被害軽減の任に当たるべきなのは誰か)、被害者という視点で考えてみよう。

別表はこれまで取り上げてきた安全安心に係るリスクをまとめたものである。安全安心リスクの特徴の一つは、リスク原因者が明確でなかったり、原因者にもともと当事者意識がないということで、リスク情報を社会に発信したり、リスク軽減の日常的行為を期待出来ないということである。これは深刻な事態が起こってからリスクを認識し、対処せざるをえないということを意味する。二つ目は、リスク原因者に当事者能力が十分に備わっていないためリスク負担者は公的機関、あるいは当事者意識の希薄な第3者になる場合が多いということである。必然、十分な情報と対処のための知識不足の中での被害軽減活動ということになる。三つ目は被害者が重大な被害を経験しても、ある時間経過後にしか社会的に認知されないため、社会が対策に乗り出したときには被害者は多数になっているということである。つまり、リスク負担者が明確になったときには既に〝回復出来ない被害〟を受けた者が多数出ているということである。また、原因者とリスク負担者が通常異なり、企業リスク等と明らかに異なっているのも大きな特徴である。

このようなリスクに対し、現代社会は未だ有効な対応法を持っていない。したがって公的支援は限定的であり、この状況は当分改善されないと覚悟すべきである。阪神淡路大震災時の崩壊建物からの被災者救出の公的力の限界がこのことを如実に表している。

結局この時代に生きるということは、社会のリスク対応力の向上を図りながら、一方で、リスクの認知、リスク回避の対処法、被害軽減を自らの時間と、コストを掛けて行うことである。その基本は、生活安全に係るリスク情報を自ら求め、また、必要な情報提示を社会に不断に要求する姿勢を持つことである。それが自己責任の時代を生きるということに対するリスクマネジメントの要請である。

安全・安心リスクの特性例

安全・安心リスク名	リスク原因者およびリスクの特徴	リスク負担者	リスク当事者(被害可能性のある人々)
自然災害(地震など)リスク	なし	公的機関、リスク当事者双方	住民等社会成員すべて
人為的災害(停電等)リスク	意図的、過失どちらの原因でも事前には特定困難	サービス提供者、公的機関	住民等社会成員すべて
生活環境(食の安全、防犯等)リスク	食の提供者、犯罪者等であるが原因者のに特定出来たときには、被害者多数、当事者能力喪失者も	当該企業ではあるが、広がりの大きさから公的規制、救済として実施することが多い	社会成員すべて

(日本総合研究所)
研究事業本部 鈴木 正敏(理事)